

林 重雄<sup>1</sup>・加藤 詩邦<sup>2</sup>：

沖縄県宮古島市池間島へ *Oxyrhynchus trinervius* (マメ科) の種子の漂着

Shigeo HAYASHI<sup>1</sup> and Shiho KATO<sup>2</sup> : Stranding seed of *Oxyrhynchus trinervius* (Leguminosae) on the beach of Miyakojima City, Okinawa Prefecture, Japan

*Oxyrhynchus trinervius* はメキシコ南部からコロンビア西部までの、中米・中南米に分布するマメ科の植物である (Rudd 1967)。その種子はユカタン半島やメキシコ沿岸、フロリダ東海岸、ドミニカ共和国などの大西洋側、それにコスタリカの太平洋側でも漂着が確認されている (Perry & Dennis 2003)。しかし、日本列島における *Oxyrhynchus trinervius* の種子の漂着はこれまで知られていなかったもので、ここに記載する。

今回、筆者らは2008年12月29日、沖縄県宮古島市池間島東部海岸の砂浜を調査中に *Oxyrhynchus trinervius* の漂着を確認した。池間島は宮古島の北西およそ1.5kmに位置し、島の海岸延長が10.1km (宮古島市ホームページ)、太平洋と東シナ海の間には浮かぶ島である (図1)。

池間島東部海岸は太平洋に面し、更新統の琉球石灰岩 (木村ほか 1993) からなる海蝕崖の下に、サンゴや有孔虫が起源となる炭酸カルシウム質の砂を持つポケットビーチが点在するところである。漂着地点は砂浜の高潮線にあたり、木片、軽石、ペットボトル、プラスチック製ウキ、発泡スチロール片、モモタマナ、ゴバンノアシ、アダゲ、ミフクラギ、サキシマスオウ、ココヤシ、ニッパヤシ、ハウガンヒルギ、ワニグチモダマ、ハマナタマメ、ワニグチモダマ、ジオクレア、タシロマメ、モダマ、シロツブ、ククイ、パンギノキ、*Mucuna urens* など多量の浮遊性の漂着物とともに存在しており、これらとともに砂浜に打ち上げられたと思われる。

宮古島では2008年11月末から12月にかけて南方系種子類の大量漂着が続き、池間島東部海岸に漂着していた *Oxyrhynchus trinervius* をはじめ大量の種子もこの期間に漂着した可能性が高い (図2, 3)。*Oxyrhynchus trinervius* には、まだ和名が与えられていない。これは漂着の見られるアメリカでも同様で、通称・Little Marbleと呼ばれている (Perry & Dennis 2003; Witherington 2007)。採集した種子の形状は球形で長径が15mmで、中央部にある臍は幅が0.5mmほどで縁は唇状に盛り上がり、臍の長さは外周の約4分の3以上を占めている。

*Oxyrhynchus trinervius* に類似した *Strongylodon siderospearus* は、ポリネシア原産、現在では広く熱帯に分布するマメ科の植物で、熱帯雨林の低地を流れる川に沿って見

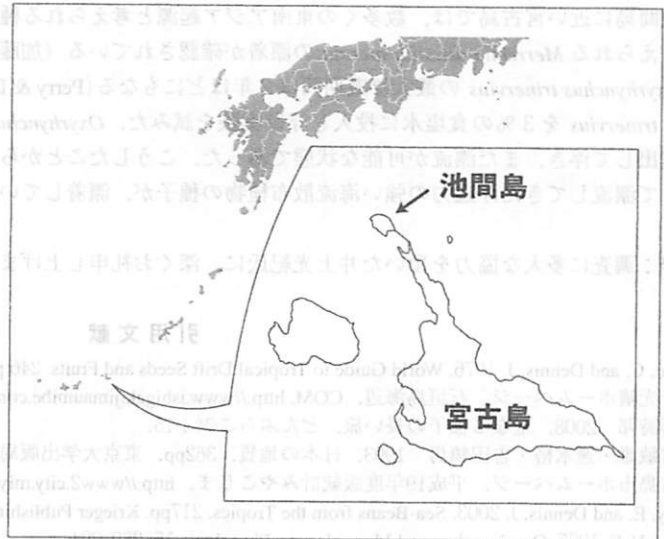


図1. 池間島の位置。

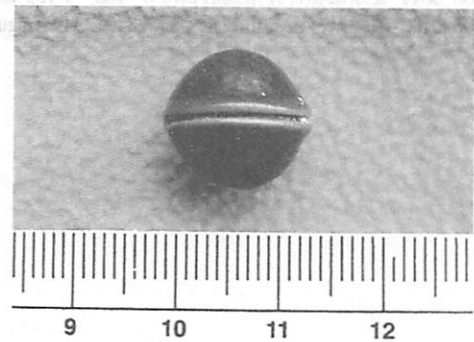


図2. *Oxyrhynchus trinervius* の種子。

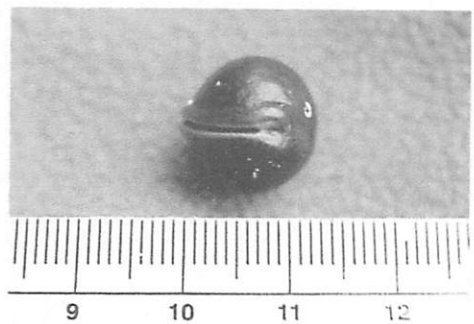


図3. *Oxyrhynchus trinervius* の種子。

られる (Gunn & Dennis 1976). *Strongylodon siderospearus* は南太平洋, ハワイとフィジーのほぼ中間に位置するキリバス領のカントン島でも漂着記録がある (Gunn & Dennis 1976). 日本では「チビブク」とも呼ばれ, 南西諸島の石垣島や宮古島で漂着が確認されている (金子ホームページ). *Strongylodon siderospearus* の種子も形状は球形だが, *Oxyrhynchus trinervius* に比べやや扁平で長径も15mmほどである. 中央部にある臍は幅が1.7mmほどで縁の盛り上がり無く, 外周の約3分の2以上を占めている.

池間島に近い宮古島では, 数多くの東南アジア起源と考えられる種子の他にも, 2007年9月28日に中米起源と考えられる *Merremia discoidesperma* の漂着が確認されている (加藤2008).

*Oxyrhynchus trinervius* の最大浮遊期間は2年ほどにもなる (Perry & Dennis 2003). 池間島に漂着した *Oxyrhynchus trinervius* を3%の食塩水に投入し浮遊実験を試みた. *Oxyrhynchus trinervius* は全体の6分の1程度を水面に露出して浮き, まだ漂流が可能な状態であった. こうしたことから南西諸島には, 中米から北赤道海流に乗って漂流してきた浮遊力の強い海流散布植物の種子が, 漂着している可能性が高いと思われる.

謝辞: 調査に多大な協力を頂いた井上光紀氏に, 深くお礼申し上げます.

#### 引用文献

- Gunn, C. and Dennis, J. 1976. World Guide to Tropical Drift Seeds and Fruits. 246 pp. The New York Times Book Co, New York.  
金子光晴ホームページ. 石垣島海辺. COM. <http://www.ishigakijimaumibe.com/mame/tibipuku/tibipuku.htm>  
加藤詩邦 2008. 聖なる種子の長い旅. どんぶらこ24: 15.  
木村敏雄・速水格・吉田鎮男 1993. 日本の地質. 362pp. 東京大学出版局, 東京.  
宮古島市ホームページ. 平成19年度版統計みやこじま. [http://www2.city.miyakojima.lg.jp/tonkei\\_m\\_2008/html/19-01.pdf](http://www2.city.miyakojima.lg.jp/tonkei_m_2008/html/19-01.pdf)  
Perry, E. and Dennis, J. 2003. Sea-Beans from the Tropics. 217pp. Krieger Publishing Company, Florida.  
Rudd, V. E. 1967. *Oxyrhynchus* and *Monoplegma*. *Phytologia* 15: 289-294.  
Witherington, B and Witherington, D. 2007. Florida's Living Beaches. 326pp. Pineapple Press Inc, Florida.

(Received Jan. 19. 2009; accepted May 12. 2009)

<sup>1</sup> 〒486-0844 愛知県春日井市島居松町3-155 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan

<sup>2</sup> 〒906-0102 沖縄県宮古島市城辺字新城349 349 Aragusuku, Gusukube, Miyakojima City, Okinawa 906-0102 Japan